



フィリピン人実習生の大好物  
ADIDAS  
(アディダス)。  
鶏の足を甘辛く炒めた料理！

# あじけん通信

2017 MARCH  
VOL.111

株式会社きぼう国際外語学院  
企画・編集 澁谷 健司

3月に入り、寒さもようやく和らぎ始めてきました。アジ研周辺では、早咲き種のさくらが、早くも花を咲かせているところがあります。実習生の皆さんの中には、さくら＝日本とのイメージが強いようで、さくらの花を見て、大喜び、熱心に写真を撮る姿が見られます。技能実習生として、日本に来た本来の目的は、日本からの技術移転を通じた母国の発展への寄与であることは変わりませんが、日本の文化に積極的に接しようとしていたり、自分達の国のことや、自国の文化を知ってもらおうと、民族衣装を持って来日したり、母国の郷土料理を作って、勧めてくれたりする皆さんの姿を見るたびに、皆さんの日本での実習生活が、草の根レベルの日本の国際化に、大いに貢献していることを実感させられています。3月、日本では旅立ちの季節。本校で学ぶ皆さんが、日本での実習生活、社会生活に、万全の態勢で旅立っていけるよう、これからも日本語学習を通して、サポートしていきたいと思います。

## あじけんスコープ

Vol.51

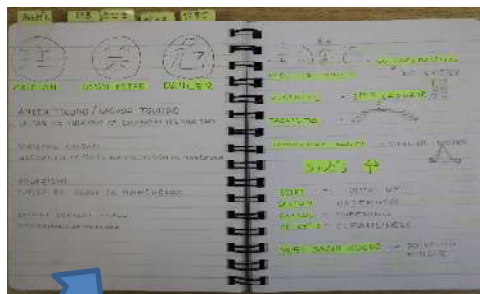
BATIK FRIDAY (バティック フライデー)



お揃いのシャツに身を包んだインドネシア人実習生の若者たち。先月、ある金曜日に教室で撮られた写真です。その日の朝、クラスのインドネシア人実習生 20 名全員が、お揃いのシャツで登校してきたので、担当講師がびっくり！「いったい何があったのか聞いてみたところ、「これは、BATIK (バティック) のシャツです。インドネシアでは、毎週金曜日は、BATIK FRIDAY(バティック フライデー)で、みなはバティックでできたふくをきます。」「これはインドネシアのぶんかです」と教えてくれました。女性はバティックで作られたスカート履くそうです。BATIK (バティック) とは、インドネシア特産の蠟結染(ろうけつぞめ)の布地のことで、インドネシアでは、毎週金曜日は、学校や職場で、この布地で作られたバティックシャツやスカートを着る習慣があるそうです。因みに、次の週の金曜日にも、皆さんお揃いのバティックシャツに包まれて、笑顔で登校してきました！

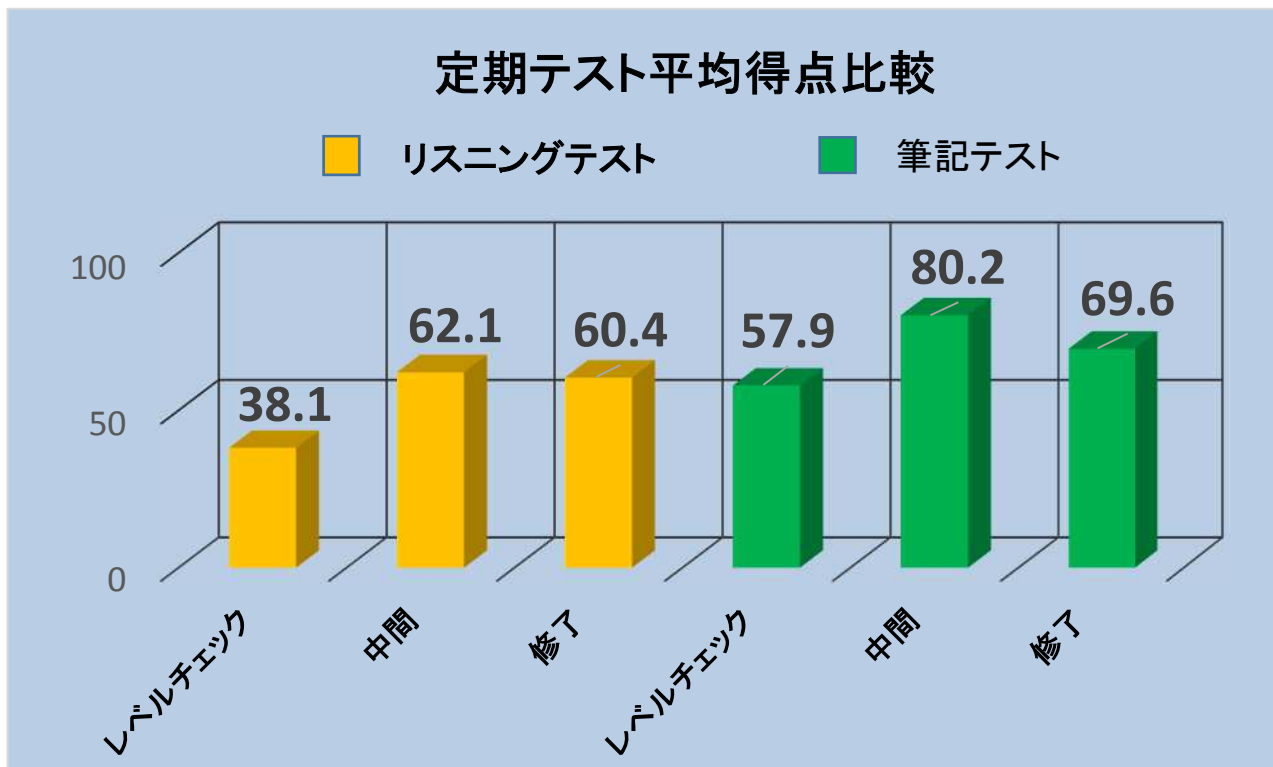
## 今月の実習生

今月の実習生は、フィリピン人実習生の GARCIA RICHARD TOLOSA (ガルシア) さんを紹介します。ガルシアさんは、とても勉強熱心な実習生で、右の写真は、自作の単語帳です。よく見ていただくと、単語帳の上には黄色い索引用のタブが付いています。また、実習時の安全確保に関わる漢字の意味を分かり易くまとめたり図を描いて言葉の意味をまとめたりするなど、日本語学習に対する意欲は、まさに技能実習生の鏡！こんな真面目で几帳面なガルシアさんですから、これから始まる技能実習でも、たくさんのことを学んで、母国の発展に貢献してくれることでしょう。ガルシアさん、安全第一で、頑張ってください！



## あじけん流日本語授業

## ～定期テストの結果から見る出題レベルと定着度～



今月のあじけん流日本語授業は、現在行われているレベルチェックテスト（講習初日に実施）、中間テスト（講習7日目に実施）、修了テスト（講習最終日に実施）の3つの定期テストの平均得点と、出題レベルについてです。上のグラフから、レベルチェックテストの平均得点は、リスニング・筆記ともに低めで、来日時に日本語の基礎が十分定着しているとは言い難いことが分かります。中間テスト、修了テストに関しては、どちらも平均得点は、最低限必要と思われる60%の定着率を超えており、リスニングと筆記を比べると中間・修了ともに筆記テストの平均得点の方が高いことが分かります。

次に、このグラフで特徴的なのは、本来であれば順調に学習内容が定着して、右肩上がりのグラフになると思われるところ、リスニングテスト・筆記テストともに、中間テストの得点が最も高い凸型のグラフになっているところです。これを見ると一見、講習期間中に実習生の学力が下がっている？と思われるかもしれませんが、そうではありません。これは、各テストの出題傾向と内容が大きく関係しています。つまり、レベルチェックテストは、来日前の実習生の皆さんの総合的な日本語力を判断する為に、基本的な出題から、応用力を試す発展的な問題まで、幅広く出題され、出題レベルもおのずと高くなっています。それに対して、中間テストは、本校の100時間日本語講習カリキュラムの前半の学習内容（基礎的な内容中心）の出題なので、出題範囲が限定的で、難易度もそれほど高くありません。その為、平均得点が高めになっていると考えられます。また、修了テストでは、本講習で学習した全ての項目がテスト範囲になっているので、出題範囲が広く、基礎力の定着だけでなく、応用力を試す問題も出題されるので、難易度も上がっています。その結果、中間テストに比べて、平均得点が下がってしまい、結果的に、凸型のグラフになるのです。今後、受入団体の皆様が本校で出させていただいている報告書の総合評価のページをご覧になる際には、レベルチェック→中間→修了の時系列で、どれくらい得点が伸びたか？ではなく、今回お知らせさせていただいた平均得点を参考に、実習生の皆さんの学習の定着度及び日本語力を判断していただけると、より実習生の現状に合った日本語力の把握が可能になると思います。

- ※ データの対象期間は2016年1月から12月の1年間。但し、来日前の日本語学習期間が極端に短い実習生と、来日前の日本語学習が1～2年間半に及ぶ、インターンシップによる
- ※ ホテル実習生の得点は、基礎データから除かれています。

当校ホームページ <http://www.aiiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます。